

月刊しばうら

2021年1月号

謹んで新年のご祝詞を申し上げます

旧年中は格別のご厚情にあざかり

心より御礼申し上げます

本年もなお一層のお引き立てを賜りますよう

お願い申し上げます

令和三年元旦

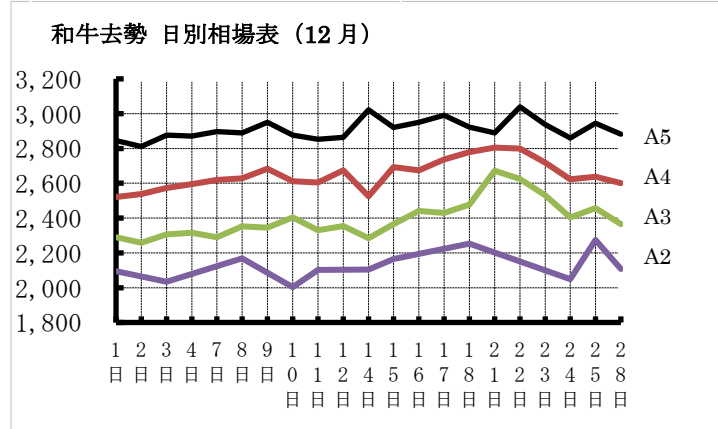
牛肉営業部

<12月の相場動向>

12月の牛枝肉相場は、行政の支援事業や輸出事業、内食需要の増加を見越した量販店需要の増加などにより、第4週目にかけてジリ高に推移する展開となった。年末年始の末端需要は帰省の自粛やGoTo支援事業の停止などで、地方の飲食・ホテル関係が苦戦した反面、都市部は量販店や焼肉店で好調だった店舗があるなど、地域や業態などにより温度差が生じたようだ。

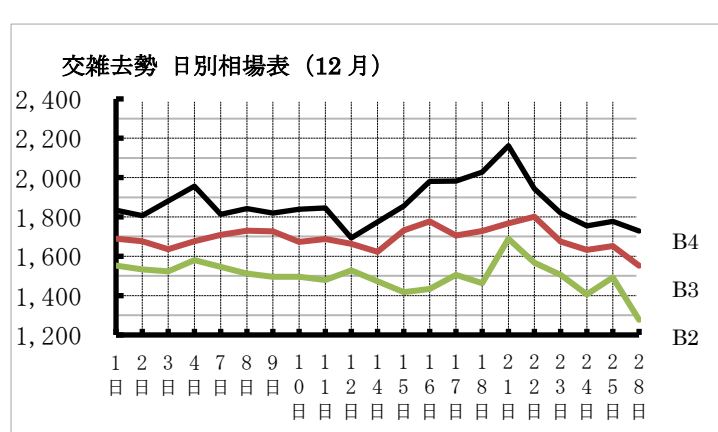
12月の月間相場は下記の通りです。

和牛去勢（月平均）



	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,906円	+141円	105.1%	+139円	105.0%
A4	2,650円	+325円	114.0%	+132円	105.2%
A3	2,387円	+376円	118.7%	+65円	102.8%
A2	2,124円	+348円	119.6%	+129円	106.5%

交雑去勢（月平均）



	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,871円	+18円	101.0%	+156円	109.1%
B3	1,709円	+15円	100.9%	+102円	106.3%
B2	1,503円	-9円	99.4%	+32円	102.2%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	上場なし	—	—	—	—
B2	756円	-91円	89.3%	-149円	83.5%

<1月の牛肉輸入量予測>

財務省の貿易統計による11月の牛肉通関量は前年同月比4.5%増の4万9,435tとなった。内訳は、チルドが1.0%増の2万1,608t、フローズンは7.5%増の2万7,827tとなっている。農畜産業振興機構による1月の牛肉輸入数量予測は、前年比5.7%減の4万4,700tで、チルドは4.2%減1万9,600t、フローズンは6.7%減の2万5,100tと予測している。

豪州産の生産量減少に伴う現地価格の高騰や、北米からの入船遅れ、前年度の日米貿易協定発効による関税引き下げを見越した通関繰り越しの反動などが影響している。

輸入牛肉通関量		11月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	12,170	13,626	89.3%
	米国	11,783	6,511	181.0%
	その他	3,874	5,754	67.3%
	合計	27,827	25,891	107.5%
フローズン	豪州	9,010	9,551	94.3%
	米国	10,870	9,726	111.8%
	その他	1,728	2,126	81.3%
	合計	21,608	21,403	101.0%

出典：食肉速報

単位：t

<1月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターの個体識別データから予測される2021年の全国出荷頭数は、黒毛和種は46.7万頭（前年比1.0%増）、交雑種は23.1万頭（同2.3%増）、乳雌は15.3万頭（同5.4%減）で、黒毛和種と交雑種の増加に対し乳雌は引続き昨対割れの展開と予測している。

農畜産業振興機構による、1月の出荷予測頭数は、前年比4.5%減の7万8,200頭と予測。品種別にみると和牛は3.8%減の3万3,300頭、交雑種は2.4%減の1万7,800頭、乳用種が7.3%減の2万5,800頭としている。

東京食肉市場の1月と畜頭数は6,450頭を予定しております。

<1月の牛枝肉相場見通し>

新型コロナウイルス感染症の新規感染者急増に伴い、緊急事態宣言が1都3県に発令され、GoTo支援事業の一時停止で地方需要の減退が見込まれるなど、国内消費動向の見通しは厳しく、1月の枝肉相場は全般的に下落相場が予測される。昨年春頃の水準までになるとは考え難いものの、各種補助事業や輸出でどこまで下落幅を支え切れるかが焦点になると思われる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,600~2,700	B4	1,700~1,800
A4	2,300~2,400	B3	1,500~1,600
A3	2,100~2,200	B2	1,300~1,400
A2	1,900~2,000		
乳牛去勢			
B3	1,000~1,050		
B2	900~950		

豚肉営業部

11月の全国と畜頭数は、前年同月比2.4%増の145万2,468頭となった。また、11月の豚肉通関数量は7万550t（前年同月比14.8%減）と前年同月を大きく下回り、前月比でも2.7%の減少となった。内訳はチルドが3万8,552t（5.8%増）、フローズンが3万1,998t（30.9%減）とフローズンは大幅に減少した。

2019-2020年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
11	77,534	82,715	21,804	191,175	75,817	90,380
12	80,884	72,264	20,806	181,469	81,783	81,970
1	80,864	72,280	21,474	187,738	80,150	66,011
2	73,425	66,987	23,077	185,042	71,714	69,683
3	79,535	67,628	25,062	185,075	77,478	67,595
4	80,239	101,568	23,124	200,821	82,085	85,822
5	71,318	79,864	20,858	214,884	73,523	65,801
6	72,535	79,522	23,208	211,865	70,031	82,541
7	73,967	75,011	21,378	204,074	75,708	82,802
8	68,179	68,431	20,340	200,507	69,117	71,998
9	71,876	65,416	19,685	193,386	72,409	72,537
10	80,156	72,415	19,333	184,855	80,388	80,946
11	79,406	70,497	19,411	175,578	79,178	79,774
比	102%	85%	89%	92%	104%	88%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

11月豚肉通関実績						単位：t	
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比		
アメリカ	20,363	116.4%	デンマーク	7,298	83.3%		
カナダ	17,054	94.0%	スペイン	5,029	51.6%		
メキシコ	1,133	138.7%	メキシコ	6,619	79.9%		
			アメリカ	3,185	98.7%		
			カナダ	2,303	56.2%		
合計	38,552	105.8%		31,998	69.1%		

単位：t

<12月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	71,400	480	453	1,070
2日	70,500	494	458	761
3日	71,400	464	446	851
4日	69,100	469	448	1,074
7日	67,800	490	454	705
8日	71,200	482	464	1,113
9日	72,200	499	459	715
10日	70,800	486	460	810
平均	70,550/日			887/日

出荷頭数は引き続き増加基調となり、全国頭数は7万頭を超える日が多くみられた。一方で依然として内食需要は底堅いものの、相場はやや落ち着いた展開となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	70,600	502	478	983
12日	—	513	482	603
14日	71,200	506	474	831
15日	73,300	517	486	1,106
16日	73,700	511	484	797
17日	72,600	510	483	873
18日	74,500	531	505	1,058
平均	72,650/日			893/日

新型コロナウイルス新規感染者数が増え、ますます内食需要の増加が顕著になった。また、気温低下に加え、白菜などの野菜価格が暴落となったことで、更に鍋物需要が強まり始めた。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	73,100	586	568	829
22日	74,300	626	600	1,092
23日	77,500	628	597	734
24日	79,400	639	598	859
25日	79,800	540	509	976
26日	—	574	512	691
28日	28,600	658	603	917
平均	68,783/日			871/日

引き続き内食需要が安定していることに加え、鶏肉の需要がひっ迫していることにより、豚肉の引き合いは強い状況が続いた。枝肉相場も上物 600円絡みの展開となり、東京のセリ最終日は上物 658円の高値となった。

<1月の豚枝肉相場見通し>

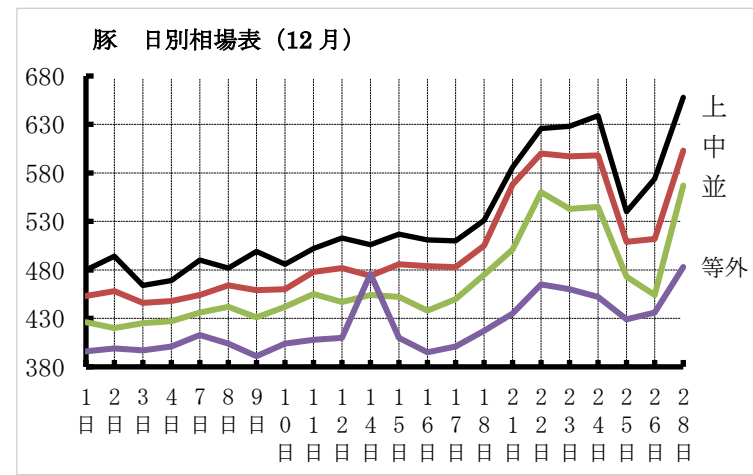
農林水産省による1月の肉豚出荷予測では139万3,000頭（前年比96%）と予測している。当市場の1月集荷予定頭数は1万7,000頭、1日あたりでは約944頭を見込んでいる。

また農畜産業振興機構によると1月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万6,900t（同92.6%）、内訳は冷蔵輸入量が3万3,200t（同99%）、冷凍輸入量は3万3,700t（同87%）と予測。

冷蔵品輸入量は、新型コロナウイルス感染症の影響により北米工場の作業効率が低下していることに加え、北米からの入船遅れが発生していることなどから、前年同月を下回ると予測する。一方で3ヵ月平均では前年同期をわずかに上回ると予測する。冷凍輸入量は国内の在庫が高い水準にあることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響による外食需要の減少などから、前年同月をかなり大きく下回ると予測する。なお3ヵ月平均でも前年同期を大幅に下回ると予測する。

1月は例年であれば需要が鈍る時期となる。しかし今年は緊急事態宣言の発令により、更に内食需要が強まるのが予想され、量販店などによる仕入れの強化で枝肉相場にも影響がありそうだ。また供給面では今後、本格的な寒波の到来が予想され、下旬にかけて増体不良による出荷頭数減少となる恐れもあることから、例年の1月とは異なった展開となることが予想される。

以上のことから、当市場の上物平均価格は480円前後、中物平均価格460円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127